

日本バプテスト連盟 全国壮年会連合

東京地方壮年連合通信 Vol.71

TOKYO SOUNEN RENGOU TSUUSHIN 2016年9月20日

「さあ、来たれ、論じ合おう。」

(イザヤ1:18a、新改訳)

目白ヶ丘教会協力牧師 内藤 幹子 (ないとう みきこ)

幼い頃、若い頃、わたしにとっての「壮年会」のイメージは、「(かなり)年上のお兄さまたちの(何となく重厚な)グループ」というものでした。しかし自分自身が年齢を重ねてきた今となっては、そのような単純なイメージは思い描けませんし、それを押し付けることも相応しくないのでしょう。そういえば、「壮年会」ってどんなグループなのだろう?と、原稿を書きながら改めて考えています。

恐らく、各教会・伝道所の「壮年会」自身が、「この集まりとは、誰の、どういう集まりなのだろう?」ということ、様々な意味で意識し、吟味し続けていることでしょう。いわゆる「壮年」を取り巻く社会環境ほか、様々な事柄が激変する中で、『壮年会』とはこのような人々の集いである』『壮年会』は教会の中でこのような役割を担うべきである」という定義付けが困難になってきたのは当然です。

だからこそ、今、各教会・伝道所、あるいは東京地方連合の中で、「壮年会」は従来のイメージを大切にしつつもそれに縛られず、「自分たちの『壮年会』とは、誰の、どういう集まりなのだろう?」ということを生き生きと語らうことができるのではないのでしょうか。神さまご自身が、どのような事柄に関しても、わたしたちのほうに近づいてきてくださり、「さあ、来たれ、論じ合おう」と招いてくださっています。「論じ合う」というと、侃々諤々、丁々発止、傍で聞いていて「あわわわ」と青ざめてしまうような「議論」(「言い合い」?)をイメージしてしまいがちですが、ここで用いられている「論じ合う」という言葉には「心を割って、共に親しく語り合う」というニュアンスが強く込められていると学んだことがあります。教会の主である方を中心にして、豊かで、自由で、愛と配慮に満ちた「論じ合い」が「壮年会」をめぐる事柄に関しても積み重ねられていきますよう、祈りたいと思います。

また、「伝道者養成」「神学校支援」というテーマが連盟内諸教会・伝道所の「壮年会」において大切に取り組みられてきたことを再び思いめぐらしています。わたしの出身神学校は東京バプテスト神学校です。学生としてだけでなく、事務スタッフ、講師としても同神学校に関わらせて頂く中で、設置の主体である三地方連合のお祈りとお支えをいつも身近に感じることができる場所に身を置かせて頂いてきました。今振り返ってみますと、その中で東京の「壮年」の方たちとの出会いと交わりをたくさん頂いてきたのだな、と本当に嬉しく、感謝するものです。2001年から担当させて頂いた「教会史（Ⅰ）（Ⅱ）」講師の働きを、今年度をもって終えることとなりました。この10月から、最後の授業（宗教改革～第一次世界大戦の頃）が始まります。どうぞお祈りください。

第5 1回全国壮年大会 in 北九州に参加して

堺キリスト教会 池田 彰夫 (いけだ あきお)

今年の全国壮年大会は、西南女学院とシオン山教会で開かれました。北九州地方連合諸教会の御働きに感謝です。田口先生の「使徒の働き」、聖霊に押し出されて情熱のこもった説教と田口先生と奥田知志先生の対談とパネルディスカッションでは、協力伝道が互いの痛みを伴うものであることを改めて知らされました。また、西南女学院マロリーホールのステンドグラスの醸し出す雰囲気とは別に、近頃のマスメディアを自分で吟味しなければならないことを確認しました。

2日目のよく準備された、整った総会では、「神学校献金において、神学寮費全額と図書援助費を貸与ではなく、支給とする。」ことと決議されました。図書援助費については、運用面で検討されていくことでしょう。オプションで廻った「抱樸館」では、名前をもったかけがえのない一人一人ではなく、ホームレスと決めつけている自分に気付かされた大会となりました。

堺キリスト教会 武 慎太郎 (たけし しんたろう)

私は、2001年の全国少年少女大会の講師を務めさせていただいて、その時に、「未来の自分への手紙」を私の提案で少年少女たちを書いてもらいました。翌年、その手紙を彼らに送る時に、私も直筆で一人一人に手紙を書いて同封しますと言っていたのに、その約束が果たせなくて、少年少女たちや先生方、兄弟姉妹に大変な迷惑をかけてしまったのです。そして過労による鬱病と診断され、入院し、その後復職はしたものの、それ以来、連盟・連合の集会に出ることが出来なくなってしまい、今に

至っていましたが、今回やっと、全国壮年大会に出席することが出来ました。(個人的な事で、ごめんなさい)。私自身が弱く、一人では生きていけない。堺教会だけではなく、「協力というのは私が生かされる道なのだ」(田口昭典先生)。「困難を共に乗り越えていく」(伊藤光雄先生)。たくさんの学びと、たくさんの方々との再会が出来て、ほんとうに参加してよかったです。ありがとうございました。

大井バプテスト教会 山田 誠一(やまだ せいいち)

2016年8月19日~20日、全国壮年大会 in 北九州に参加させていただきました。初日は西南女学院、2日目は日本バプテストシオン山教会で行われました。385名の参加があったと聞いています。また、女性の参加者もあり2日目は女性のつどいという特別プログラムも組まれていました。

初日は開会礼拝、主題公演、対談、パネルディスカッション、レセプション~夕食と音楽の夕べ、という大会主題「連帯と祈り」に重点を置いたとても考えさせられる時と良き交わりの時をいただきました。

2日目は総会を中心としたこれからの壮年連合にとって何を大切にしていけるのかを共に語る事ができた時でした。

私は18日(木)の神学校献金推進委員会(北九州バプテスト教会)から出席させていただきましたが、とてもいいものをいただいてきました。それは、北九州地方連合が現在取り組んでいることです。連合会費、神学校献金などを納めていない教会に北九州地方連合の役員会とその有志が押しかけて行って礼拝や集会を持つという企画です。これは、地域共働プロジェクト「おじゃまします集会」なるものだそうです。予定している教会に連絡を取り曜日と時間を決めて礼拝や祈祷会をします。説教はその教会の牧師にお願いし、献金もその教会にお捧げします。そして、共に祈り合うというものです。顔が見える関係づくりはお互いの日々の祈りが充実します。今まであまり知らなかった教会との良い関係作りが人と人とが知り合うことで豊かにされていきます。これは今年の1月から始まり月1ペースで今もやっているとのこと。東京でもいいものは真似してみても構わないと思っています。

また、総会では神学生がさらに学びに打ち込めるようにと2種の奨学金が貸与から給付へと変わっていきます。さらに、図書費の補助や配偶者特別加算、子ども特別加算などが決議されました。これを持続していけるように私たち壮年はさらに伝道者養成に励んでいかなければならないと思われました。充実した全国壮年大会 in 北九州でした。来年は天城でお会いしましょう。

◇ 2016年度東京地方壮年連合定期総会のご案内◇

- 日時：2016年11月23日（水・祝） 15:00～16:30（予定）
会場：常盤台バプテスト教会（宣教会議後に行ないます。）
議案：①2015年度活動報告、決算報告
②2016年度活動説明、会計報告（決算見込み）
③2017年度活動計画、予算
④役員改選

※近々、総会案内を各教会に郵送します。多くの参加を期待しています。

公 示 — 東京地方壮年連合 役員選挙立候補

東京地方壮年連合 役員会

2016年度総会は、2016年11月23日（祝日）に開催され、以下の選挙を行います。役員会は、選挙の前提である立候補を重んじて、東京地方壮年連合監査の青木一郎兄（中野）、鈴木武史兄（花野井）に選挙管理委員を委嘱しました。

以下により、立候補を受付けます。

1. 立候補対象：連合規約第7条、第10条による。

任期は2017年度及び2018年度

会長、事務局長、書記、会計：各1名

伝道委員、広報委員：各2名

神学校献金推進委員：1名

監査：2名

2. 立候補締切：2016年11月11日必着

3. 立候補届出先：

郵送：〒270-1154 我孫子市白山 1-28-12

鈴木 武史（東京壮年連合 選挙管理委員）

メールアドレス：tk-suzuki@jcom.home.ne.jp

4. 立候補届出様式：特にありません。 以 上

— 壮年の皆さんの立候補をお待ちしています —

上記の公示を元にぜひ立候補ください。東京地方壮年連合は、会員相互の啓発を計り、交流親睦を深めるとともに伝道活動を積極的に協力し合うことを目的としています。私たちは、役員間で各自の意見を出し合って、良いものを作るために努力してきました。うまくいった時は、喜びを感じることができました。一緒にやってみませんか。

東京地方壮年連合 役員会

* 恒例の研修会開催のお知らせ *

講師：松見 俊 先生 西南学院神学部教授

日時：2017年2月18日（土） 13:30～ 場所：大久保教会

発行人：東京地方壮年連合会長 山田誠一

編集人：中村茂